



贈ろう「真心」、つなごう「恩」

主幹教諭 三浦 勝也

今年の暦も、いよいよ今月を残すのみとなりました。まさに「光陰矢の如し」、時の流れの早さをひしひしと感じる今日この頃です。感染症の予防を講じながら進めてきたこの1年間の教育活動。先月の音楽会では、どの学年もチーム一体となり、心温まる素晴らしいメロディを奏でることができました。これもひとえに、保護者の皆様の支えがあってこそそのものだと感じています。あらためて感謝申し上げます。

今年の締めくくりとなる12月。みなさんは何を連想するでしょうか。「冬」「師走」「冬至」「雪」「寒い」など、たくさんのが頭に浮かぶことかと思いますが、やはり1番はクリスマスでしょうか。子供たちにとってはプレゼントが届く嬉しい1日であり、我々大人にとっても、そんな子供たちの笑顔に出会える素敵な1日です。

私は子供の頃、「毎日がクリスマスだったらどんなに幸せだろうか」と何度も思っていました。確かに、形あるプレゼントを受け取れば嬉しくなるものです。ですが、年を経て、気持ちを温かくするのは物だけでないことに気が付きました。それは何か。ずばり、「心の贈り物」。感謝の心や、他者への労りや優しさです。

また、日本には、「一宿一飯の恩義」という言葉があります。旅の中で宿泊場所や食べ物のお世話を受けたら、その恩を忘れてはいけないという考え方です。他者から何らかの施しを受けたら、それに報いることが大切であるという使い方もされます。「恩返し」という言葉を耳にしたこともあるでしょう。

「恩」という言葉を聞いて思い浮かんでくるのが、大学生の頃に観た『ペイ・フォワード』という映画です。主人公の少年が、少しでもよい世界にするために1つ決まりを作れるなら何がよいかを考え、あるアイデアを思いつくという物語です。当時もその発想にとても共感したことを覚えていますし、今でも素敵な決まりだなと感じています。一体、どんなものかというところ。

「誰かによいこと・親切なことを1つされたら、3人によいことを返そう」

そもそも、受けた「恩」をその人に返すこと自体が素晴らしい行為ですが、もし3人に返すことができれば、嬉しくなる人・喜ぶ人の数は3倍になります。もしも、その3人が、それぞれ次の3人に返せば、 $3 \times 3 = 9$ 、なんと9倍の喜びにつながるのです。その9人がさらに3人ずつに・・・と考えていくと、幸福な気持ちになる人がどれだけ多くなることか。

「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。「大丈夫？」と相手のことを慮る。「手伝おうか」と手を差し伸べる。たった一言の言葉であっても、どんなに短い文字だとしても、そこに真心が込められていれば必ず伝わりますし、真心をもってしか人の心を動かさません。

大切な人に真心を贈る。誰かに贈られたら、その恩返しを他の人にもする。気持ちがあればできることです。令和4年の締めくくり。みなさんで「恩」を贈り合い、温かい気持ちで新年を迎えられることを願っています。